

竹鼻別院輪番と竹鼻保育園園長をやっています。保育園の子どもたちに何を教えたらいいのか、何を育てていったらいいのか、考え続けております。その中から、信ずるということ育てる、つまり子どもたちが信ずることのできるという人間関係を構築することではないかと今思っています。愛という言葉でもいいのですが、あえて信ずるという言葉を使います。人間としての成長を考えた時、信ずるという問題は、欠かすことができない重大なことです。幼くして親を信ずることができない虐待などを経験してしまったら、その子の将来はどうなるでしょうか。

浄土真宗に於いて「信」の問題はきわめて重要です。人間として生きること、そこには「信」の問題を離れてはあり得ません。人を信ずることができる、という自力の信が成り立つためには、自分が信じられているという確信がないと崩れていきます。時には信頼していた人に裏切られるという、辛い経験は誰にでもあることです。人を信ずることができなくなると、お金を信ずる、ペットを信ずるなど他のものを信じて生きていきます。しかし、信ずるに足りないことに気づくと、絶望とともに生きることが出来なくなります。自分自身も信じられなくなるのです。お年寄りの速く死にたいという言葉はこれを言うのではないのでしょうか。

私が気づく気づかないにかかわらず、仏様は私が誕生以来私を信じていてくださる。それをお釈迦様は天上天下唯我独尊とおっしゃり、親鸞聖人親鸞一人がためなりけりと表明してくださっています。すべてが信じられなくなっても、私を信じていてくださる存在があった尊いお言葉です。